

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100616		
法人名	医療法人 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア寿町		
所在地	北海道釧路市寿3丁目3番28号		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症高齢者が重度化しても慣れ親しんだ地域の中で最期まで安心して暮らせる事業所として2022年に開設されたグループホームです。認知症の状態にある入居者様は明日には覚えていないかも知れないが「今日一日楽しかった」を言葉として、全力で取り組んでいます。接遇面や声掛けの方法に配慮し、入居者様の笑顔を引き出せるように、日々、職員が入居者様からの些細な事にも耳を傾け、寄り添ったケアを心掛けています。
 ・家庭的な雰囲気大切に、入居者が主体のホーム作りを目指しています。
 ・レクリエーションも強制的には行わず、職員は寄り添いながらアドバイスをしたりと楽しんだり、家族同様のお付き合いを心掛けています。「自分の親、又は自分自身が住んでみたい」と思えるような事業所を目指し、一つ一つの問題点が勉強と思っ努力しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0194100616-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和6年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームウィスタリア寿は2階建ての2ユニットで医療法人藤花会による釧路市2か所目で開設されています。開設2年目の当事業所の理念は「どんな事業所だったら自分が入りたいのか」を職員に問い作成した理念「ゆったり」「楽しく」「いっしょに」を基に毎朝唱和し笑顔忘れずに利用者とのコミュニケーションを図っています。
 主役は利用者であり職員の都合で決めるのではなく、利用者の意思と個々の生活の時間の流れを把握し自由な行動を見守る事を職員に浸透させていくことを管理者は心掛けています。今年度も感染症等の予防から玄関での面会ですが、毎月のホーム便りでの利用者の活動内容が掲載され楽しい様子が見受けられ信頼、安心に繋がっています。特に食に力を入れ食事内容はその日の利用者の体調や嗜好によって提供され、五感を刺激し楽しい雰囲気と一緒に食事を味わい、誕生会などは個別に要望を実現させ外食に行くなど喜び・意欲に繋げるように食からの啓発を促しています。利用者を理解し語彙力を身に着け言葉を他の表現に言い換えたり、利用者や場面に合わせてより分かりやすくゆっくり、はっきり話し説明してより良いケアが出来るように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えやすい場所に掲示し、毎朝、申し送り時に唱和をし、共有することで職員一人一人が理念を意識して実践できるように取り組んでいます。	開設時に、どんな施設で暮らしたいかを管理者が提案し職員の意見を纏めた理念で、毎朝申し送りで唱和し利用者個々にあった生活リズムと利用者の心に寄り添う介護を目指し支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。現在もコロナ禍で町内会活動は休止状態である。再開した際は、地域の方との交流に努めていきたい。	施設開設準備から町内会と地域に挨拶に伺い周知・理解に努めています。町内会の清掃活動を行ったりコロナの為実現はされていませんが、自治会に事業所会議室の提供を申し出しています。また、利用者の通院等近隣のハイヤーやコンビニを多く利用し認知度を高める取り組みも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を常に解放して、地域の方々いつでも相談に来られたり、交流がもてるよう、地域の為に出来る事を検討し地域の一員として認められるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催で、民生委員、地域包括、町内会役員、入居者家族に郵送している。行事予定、感染対策、事故報告等。ご家族から何かある場合は、直接意見を聞く事が多い。	今年度の運営推進会議はコロナウイルス感染予防対策のため書面報告となっています。また、委員は市の担当者、包括センター職員、民生委員、自治会の会長、副会長、家族等になっており会議前には意見・要望を伺っています。会議録は全員に郵送し利用者状況や運営の理解に繋げています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出物などは窓口を持って行き担当者の方に直接渡すようにしている。不明な事や困りごと相談するようにしている。地域包括支援センターとは日頃から協力関係を築いている。	市の担当者とは監査や苦情を含め適切なアドバイスや指導を受けており、わからない点など直接相談に行ける良好な関係構築がなされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束適正化委員会の開催や、勉強会を開催し、全職員への理解、意識づけを行っている。日頃から言葉による抑制も拘束に含まれる事を確認し、身体拘束のないサービスに取り組んでいる。	管理者やユニットリーダー、介護職員で構成された身体拘束適正化委員会と職員研修会も実施されています。職員の指導については、全体と個別指導を含めたスピーチロック、言葉の抑制、尊厳を持つての言葉掛けも含め徹底化に努めています。	身体拘束適正化委員会議事録と研修を一纏まりではなく分かりやすく別々に保管することを期待します。また、研修参加職員にスピーチロックに関して職員の理解度を把握するための改善策に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1～2回の勉強会を実施し、虐待について考える機会を設け、職員が共通認識ができるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人活動を行っている管理者を中心に、制度についての研修を行い、職員の周知に努めている。必要時には制度の内容について家族に説明し、申請に向けた支援が出来る体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご本人・ご家族に十分な説明を行い、質問などがあれば、その場で解決するようにしている。納得された上で契約書に署名、捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には積極的に電話連絡する事を心掛けており、体調変化や施設の状況を伝えるようにしている。いつでも誰でも何でも気軽に意見や要望を聞き入れる機会を設けている。	コロナウイルス感染予防等のため、令和5年度も引き続き玄関先での面会となっています。毎月発行のホーム便りは利用者活動を知る情報の1つで家族が楽しみにしています。夏祭りでは家族や近隣住民の参加を得て利用者、職員参加で楽しい交流、意見交換が行われています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、毎月のユニット会議に加えて朝の申し送り時や日常業務の中において、随時、個別相談等を含めた話し合いなどにより、意見提案を聞く機会を設けている。	毎月1回のユニット毎会議では、内部研修・気づいた課題、介護計画の内容の検討などが話し合われます。立候補制度で行事毎の担当者を決め企画（飾りつけ・ゲーム・食事内容）し、利用者にとって楽しく明るく元気になるように創意工夫されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように整備に努めている。職員の休暇希望を優先してシフトを作成したり、資格取得が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の各ユニット会議時に研修を行っている。コロナ禍で感染の心配があり外部研修に管理者以外は参加できていないが、研修に参加出来る時にはシフト調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の介護支援専門研修会に参加し情報交換を行っている。法人内での事業所との連携に加え、情報共有を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように、不安や困難事項を早期に対応し、ご家族や関係者と情報交換を密に行い、入居者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、自宅や入院先を訪問し、入居者様やご家族の意見を聞き、その上で施設側の意向も説明し、理解して頂けるよう出来る限り話し合う機会を設け情報交換を行いながら信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族からの要望、アセスメントよりケアプランを作成。サービス実施後は定期的に見直しを行い状態の変化に合わせたサービスの変更等、ご家族とも相談しながら支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関りの中で、一緒にテレビを観たり、ソファに座り昔話を聞いたり、本人の体調に合わせ、食後の片付けやお盆拭きなど入居者様と共にしながら学ぶ事も多く、共に支え合う関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただく事は勿論の事、ご家族も支援される側ではなく職員と一緒に本人を支えて行く事ができるよう情報交換、提供に努めている。又、面会時には近況を報告し、家族と共に話が出来る環境を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場の関係が途切れないよう、面会、外出、外食、家族との交流の調整をして入居者様の楽しみに繋げられるよう支援している。今年は夏祭りを開催し家族交流を実施している。	お墓参りや受診後の買い物、外食等は家族の協力の基支援に努めています。2ヶ月に1回の訪問理容や手紙の代読、携帯電話で家族と毎日連絡したり、個人で新聞の購読や読書好きな利用者は次の読む本をリクエストして楽しみにしており希望を叶えるよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、リビングで食事、体操やレクリエーションで入居者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入居者ご家族や関係者が立ち寄って下さったり、お電話をいただく事があります。必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の会話から入居者様の思いや意向、心配な事を聴き取り、ご家族に相談してサービスに反映させている。また、意向表出が難しい入居者様には、職員間で情報を共有し話し合い本人の意向に添えるように努めている。	利用者の生活歴や状況を見定め部屋の掃除や洗濯干し等個々の意欲を大切にその日その時できる範囲で支援に努めています。利用者に対しては職員が笑顔でコミュニケーションを図り利用者の笑顔が増えるように心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の時代背景や、これまで暮してきた環境、家族背景をご家族の話や、ご本人の言動から把握し、生活環境を整え安心して、その方らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等については一人一人介護日誌に記録し、全職員で把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見や要望を電話や来所時に聴き取り、毎月のカンファレンスで検討された職員間の気付きや主治医の意見を取り入れて入居者様本位の介護計画を3ヶ月から半年毎に作成している。入居者様の状態に変化があれば、その都度見直している。	基本6ヶ月を目途に介護計画の見直しをしていますが、変化がある場合はその都度見直しを行っています。職員の意識改革を目指し、利用者が安全に1段階のステップを踏めるため職員全体が取り組めるよう管理者は指導しています。	介護日誌に介護目標が記入されており日々確認できチェックするようになっていますが、個々の職員が利用者の今の状態から次の改善を意識しながら利用者の生活改善が図られことを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。その記録については申し送り時や日常業務の中において、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出等や、本人の希望による買い物等の外出支援やご家族との交流を図る夏祭り等の行事を企画し実践している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染の心配があり、地域との交流はできていない。今後は地域行事への積極的な参加を支援したり、また、施設での行事に近隣住民の方々の参加を呼び掛けていきたい。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択(普段のかかりつけ医及び入院時)については、入居時にご家族に対して丁寧に説明し、ご家族の納得がいくよう心掛けている。又、体調管理については普段からご家族と連絡を密にしている。	定期受診は基本、家族対応ですが事業所が一緒に行き病院で家族と落ち合う場合もあります。個人契約で月1回の往診と訪問看護師を利用されている方もいます。法人の看護師が週2回利用者の健康チェックを行い利用者、家族の安心に繋げています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調については、「いつもの何かが違う」という気づきを大切にできるよう徹底しており、異変が生じた場合には看護師と連絡を取り合い、適切な処置を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関を中心に、普段からコミュニケーション作りを心掛けており、入居者が入院となった場合でも何でも相談できる関係性を構築できるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年月が経つとレベルも変わることが常にご家族には伝えており、実際に重度化(又はその予兆)となった場合であっても、当事業所としての役割を丁寧に説明するよう心掛けている。	入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針で利用者が重度化した場合、現時点において事業所側の出来ることを説明し理解を得ています。法人の考えや往診を契約されている利用者に対しても主治医との今後の対応を家族とともに検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の生活の中で起こりうる事故や急変時の対応方法について研修を行っている。また、消防の救命救急講習を受講し心肺蘇生法を受けるなど努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染の心配があり、地域との交流はできていない。今後は地域行事への積極的な参加を支援したり、また、施設での行事に近隣住民の方々の参加を呼び掛けている。	消防署立会いのもと年2回、避難訓練を行っています。停電時の対応は自家発電機が設置されています。津波災害警戒地域に指定されているため近所の4階建てマンションと企業に一時避難場所としての利用をお願いしています。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の場面では、声掛けや対応に特に気を配り入居者のプライドや羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。また、入居者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務については、常に情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	管理者は不適切なケアや言動を見聞きした場合は職員同士お互いに見逃さず今のは正しいのかを確認し自分に置き換えながら日々の支援に取り組むことを指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では本人が思いや希望を表しやすい雰囲気作りをしている。また、自己決定できる適度な距離をおきながら、本人の希望を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな流れはあるが、その日の入居者のそれぞれの状態や希望を聞きながら、その人のペースにあった一日が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から職員が声掛けをして身だしなみを整えることができるように支援し、その方の好みに合わせて着替えを用意したりしている。お化粧を施す事が日課の方には肌のお手入れ方法をお教えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の体調に合わせ、調理法や食事形態を変えたり季節感を感じた食事になるよう工夫しています。誕生日には入居者が食べたいものを提供するようにしている。	メニューは当日の職員が食材を見て利用者と相談しながら調理をして提供しています。家族と一緒にの外出や利用者の希望で誕生日に仲の良い利用者と回転寿司を食べに行ったりハンバーガーセットのテイクアウトなど食への意欲、満足感が得られるよう取り組んでいます。たこ焼きや自分で恵方巻を作ったりとバラエティーに富み楽しい食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水量を毎回記録し、個人の状態に応じた食事形態で提供できるように努めている。一人一人の身体状況(既往歴、身長、体重等)や、その日の状態を把握し、その人にあった栄養摂取や水分確保の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入居者へ声掛けを行い口腔ケアを実施している。入居者の動作を待ち助言しているが最終的な確認を行っている。義歯に関しては毎日、義歯洗浄剤を使用し清潔管理に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表を用いて個人の排泄パターンを把握している。排泄感覚の曖昧な方やトイレの場所がわからない方には定時、随時の誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。また、便秘予防として乳酸菌飲料を毎朝提供しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導でトイレでの排泄に努めています。誘導時にはプライバシーに配慮した声掛けを心掛けています。安全を確保するため夜間ポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。食物繊維を多く含む物を提供したり、水分摂取に心掛けています。歩行練習などで身体を動かす事も心掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴予定はありますが(基本は週2回)本人のペースで入浴が出来るように支援しています。見守りを中心にしながら出来ない部分の介助をしながら支援している。	利用者の希望や体調に考慮し入浴は週2回を基本に入浴を支援しています。会話を楽しみながらリラックス出来るよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体力や状態、習慣に合わせて生活リズムが崩れない程度に休息時間を設けている。居室の明りなどで入眠がスムーズに出来るように調整している。眠れない時にはホールで過ごしていただき自然な睡眠ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から新しく処方される薬についての説明があり、申し送り、記録等に記載し職員全員に伝わるようにしている。また、状態の変化があった時には主治医へ相談するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人の個性を捉えた支援ができるようにしている。また、ご本人の状態の把握も行い、負担のかからない活動をして頂いている。また、個別に合った楽しみ事を探し出すよう日々努めている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、以前に比べると外出の機会は減っているが、感染状況をみながら、5月の花見、9月の花見等に出掛け、少しずつ外出を増やし、入居者の気分転換を図っている。	天気の良い日には施設周辺を散策したり野外で家族が集い夏祭り(バーベキュー)を開催し家族同士、職員と交流しています。法事の参列や受診後に自宅を見に行ったり、動物園、ドライブではソフトクリームを食べたりと気分転換を図っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所に一括管理しているが、希望に応じて一定のお小遣いをご本人が所持することにも配慮している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、自由に電話をされている。届いた手紙や封書は当人に手渡し、必要に応じて職員が代読支援をしている。希望があれば電話の貸し出しを行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節に応じた飾りつけを入居者と一緒に作成し、廊下には入居者の作品や笑顔の写真を掲載している。共有空間には温度湿度計を設置し、カーテンの開閉、換気、空調設備を使用しながら快適な空間作りに努めている。	回路型のリビングで廊下の壁には季節やイベントの飾り付けがされており、歩行しながら職員と思い出話を楽しんでいます。2階に本棚が整備され様々な本が置かれています。テーブルの配置を変えたことで利用者同士気遣いながら穏やかに和気あいあいと日常のお手伝いをしながら生き生きと過ごされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルームに畳コーナーを配置し寛げる場所を設けているが入居者が自ら利用する機会が少ない。入居者の行動を抑制せず、ご本人の意思で自由にリビングや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古くなったものでもご本人の思いを第一として、使い慣れたものを持って来ていただいている。なるべく自宅での生活環境と変わらないように配慮している。仏壇を持ち込まれている居室もあります。	居室には使い慣れた好みの物が持ち込まれています。時代劇などの本を読んだり、特技の裁縫でウエスを作ったり、毎日携帯で家族と連絡したりと今までの習慣を継続して居心地いい部屋になるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活的に頻繁に使用する場所については、入居者独りでも安全に使用できるよう配慮している。また、日々の業務においてリスク管理(危険度)を徹底している。		